

Sporadic MPNSTとNF1 associated MPNSTにおける治療反応性と予後に 関する研究

研究分担者 緒方 大 国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科 医員

研究要旨

NF1 associated malignant peripheral nerve sheath tumor(MPNST) はSporadic MPNST に比べ予後が不良であるという報告がある一方で、その予後は同等であるという報告も存在する。今回我々は2011年から2020年までに国立がん研究センター中央病院で加療した悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST) 60例を対象とし、Sporadic MPNSTとNF1 associated MPNSTにおける治療反応性と予後の比較を行った。

年齢中央値は37歳で、男性29例、女性31例であった。発生部位は躯幹が24例と最多で、後腹膜11例、下肢10例であった。60例中NF1 associated MPNSTが35例、Sporadic MPNSTは25例であり、治療経過中に手術治療を受けたものは57例、放射線治療を受けたものは25例、薬物治療を受けたものは29例であった。

NF1 associated MPNST、Sporadic MPNSTそれぞれの5年全生存率は63.3%、43.3%で(p=0.466)、両者に統計学的な有意差はみられなかった。

A. 研究目的

Sporadic MPNST と NF1 associated MPNST における治療反応性と予後を比較する。

B. 研究方法

2011年から2020年までに国立がん研究センター中央病院で加療した悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST) 60例を対象とし、Sporadic MPNST と NF1 associated MPNST における治療反応性と予後の比較を行う。

C. 研究結果

体腔内発生が30%を占めていた

健診やフォローアップ中の画像検査で診断されたものが11.7%あった

腫瘍径5cm以上のものが80%で、切除縁の違いにより生存に有意差はみられなかった。

Sporadic MPNST と NF1 associated MPNST の生存に有意差はみられなかった。

化学療法により一定の奏効は得られているが、予後延長効果はみられなかった。

Sporadic MPNST と NF1 associated MPNST の間で化学療法の効果に差はなかった。

D. 考察

NF1 associated MPNST をどのように早期診断し、治療を行うかについては今回の検討では不十分であった。

E. 結論

NF1 associated MPNST のみを対象として、改めて検討することで治療成績に関連する因子を特定したい。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

2021年第12回レックリングハウゼン病学会

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし